

# 学生発新商品で

広島工業大×廿日市の研究会

## 「木のまち」PR

桜の花びらをモチーフにした小物入れや、宮島の風景を彫ったランプシェードを見る森田教授㊦と青原さん㊧、小泉さん



広島市佐伯区の広島工業大の学生が「木のまち廿日市」をPRしようとして二つの製品をデザインした。小物入れとランプシェードで、廿日市市や木工製造業者でつくる「はつかいち木工研究会」と連携して商品化。外国人観光客を主なターゲットに「旅の思い出を重ねてほしい」との思いがこもる。

(菊本孟)

環境学部の森田秀樹教授

のゼミで木工デザインなどを学ぶ青原こころさん㊦  
㊧広島市安佐北区㊧の小物入れ「花咲く器」と、小泉優斗さん(21)㊧同市安佐南区㊧のランプシェード「追憶ノ栞」。

花咲く器は、廿日市市の木とされる桜をモチーフにデザイン。花びらの形をした長さ10センチの器五つのセツ

## 外国人客に照準 小物入れとランプシェード

トで、並べると一輪の花になる。「一つ一つの器がつながっていく良さなど遊び心も込めた」と青原さん。端材を再利用した器はアクセサリー入れなどに幅広く使えるという。

追憶ノ栞は、市内産のヒノキを使用。高さ15センチ、厚さ3センチの木の板6枚を組み合わせて円形のランプ台を囲う。別売りの電球で中から照らせば、板に彫られた大鳥居や五重塔など宮島の風景が浮かび上がる仕掛けだ。小泉さんは「木の香りと一緒に、癒やしも感じてほしい」と願う。

同研究会は、市内の職人の作品の展示など「木のまち」のPR活動を続ける。その一環で同大に連携を持ちかけた。森田教授は「廿日市の伝統や特徴を学び、生かしたデザインになった」と太鼓判を押す。商品はともに7700円。同研究会会員の木工製造きくら(同市)が受注販売する。きくら ☎0880(42663) 2479。